

週日の説教

金 大烈 神父 2011年3月1日(火)

《全ては神様にいただいたもの - 「当たり前」ではなくて「感謝」を-》

ある物乞いの人に毎日100円ずつあげている人がいました。ある日この人に物乞いの人が、「あなたはおと年までは、毎日1000円ずつくれました。そして去年は毎日500円ずつくれました。しかし今年は100円しかくれませんか。どうしてですか。」と聞きました。それを聞いたその人は、「そうですね。私はおと年までは一人暮らしだったので少し余裕がありました。しかし昨年結婚をして、使うお金がだんだん増えて来て、今年は100円しか上げられなくなってしまいました。すみませんでした。」と答えました。それを聞いた物乞いの方は、少し考え込むと、またこのように言いました。「では、あなたはお金で家族を養っているのですね。」と。

哲学的には、論理にあわないことを『詭弁^{きべん}』と言います。今の話も、言葉の上では『詭弁』です。皆様も一緒に笑いましたよね。しかし、神様と私たちの関係を考えると、私たちもこのような『詭弁』を毎日口にしていないでしょうか。神様は、私たちが十分に食べて、飲んで、着て、生きられる世をくださいました。しかし私たちは、そのようないただいたものに感謝するより、不平不満ばかり言っています。そして、感謝すべきものなのに、当然もらうべきものだ勘違いして、「なぜこれしかもらえないのか」という不満を持ち、神様を非難しているのではないのでしょうか。

今日の福音(マルコ10・28-31)でも、イエス様の「わたしのため福音のために、全てを捨てた者は、後の世では永遠の命を受け、全てのものは100倍以上の実を結び、それも受ける」という話がありましたね。

私たちが「捨ててついて行きます」と言っている「捨てるもの」は、実際にはもともと自分のものではなかったのです。「全てはあなたにいただいたもの。あなたが与えてくださることを信じ、そういうものには命をかけません。」と告白できることが、信者として望ましい姿、正しい態度ではないかと思います。

考えてみますと、この物乞いの方の「私のお金であなたの家族を支えている」という不平のように、私もとんでもない『詭弁』を口にしていないかもしれません。そんな反省をしてみました。

「ただでいただいたものだから、私は惜しみなく返します。」という準備された心が何よりも必要ではないのでしょうか。

ありがとうございました。